

11. 最終処分場関連技術

清水建設株式会社

土木技術本部 技術第1部 鈴木 健、大野 文良

1. 技術のねらい

清水建設は地域と共生した最終処分場を考えます。

最終処分場には、新設処分場及び既設で何か対策が必要な処分場などがあります。どの処分場にも必要な技術が地下水など周辺環境を保全する技術です。廃棄物からの浸出水を外部に漏らさない遮水層は処分場の生命線です。新規処分場であれば、最初から確実な遮水層の構築が必要ですし、不適正処分場などでは後からの遮水層が必要になります。また、処分場の建設が難しくなっていることや不法投棄物の処理などでは、埋設廃棄物などの掘り起こしの技術が必要です。

清水建設では、これらの関連技術を地球環境の保全技術としてとらえています。

2. 技術の概要

最終処分場建設への取り組み

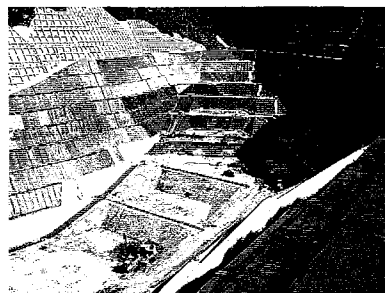
- ・ 遮水構造
- ・ 電気式漏水検知システム
- ・ 遮水工修復技術
- ・ 鉛直遮水壁
- ・ リニューアル／再生技術
- ・ クローズド型最終処分場
- ・ 豊富な実績

要素技術から遮水システム等など幅広く処分場の構築技術を保有しております。

エコシール工法

砕石工場から排出される脱水汚泥を用いた土質系遮水層の構築工法

- ・ 透水係数： $k=1\times 10^{-6}\text{cm/sec}$ 以下の土質系遮水層の構築が可能。



埋立ごみの掘り起こし技術

既設埋設ごみの掘り起こし・分別技術により、既設処分場の延命化や不法投棄対策が可能。



ラテナビウォール工法

シート横引き方式による地下遮水壁構築工法

- ・ 従来工法に比べて継手箇所 1/10 以下で、工期 40%短縮、コスト 25%削減が可能



シート展開状況

